

3 景観構造の特性

1 節で整理した景観特性を捉える各要素をもとに、市街地空間の大きな特性から見ると、本市の景観構造は「基本となる面的な要素」及び「骨格となる軸的な要素」から特性を捉えることができます。

(1) 基本となる面的な要素

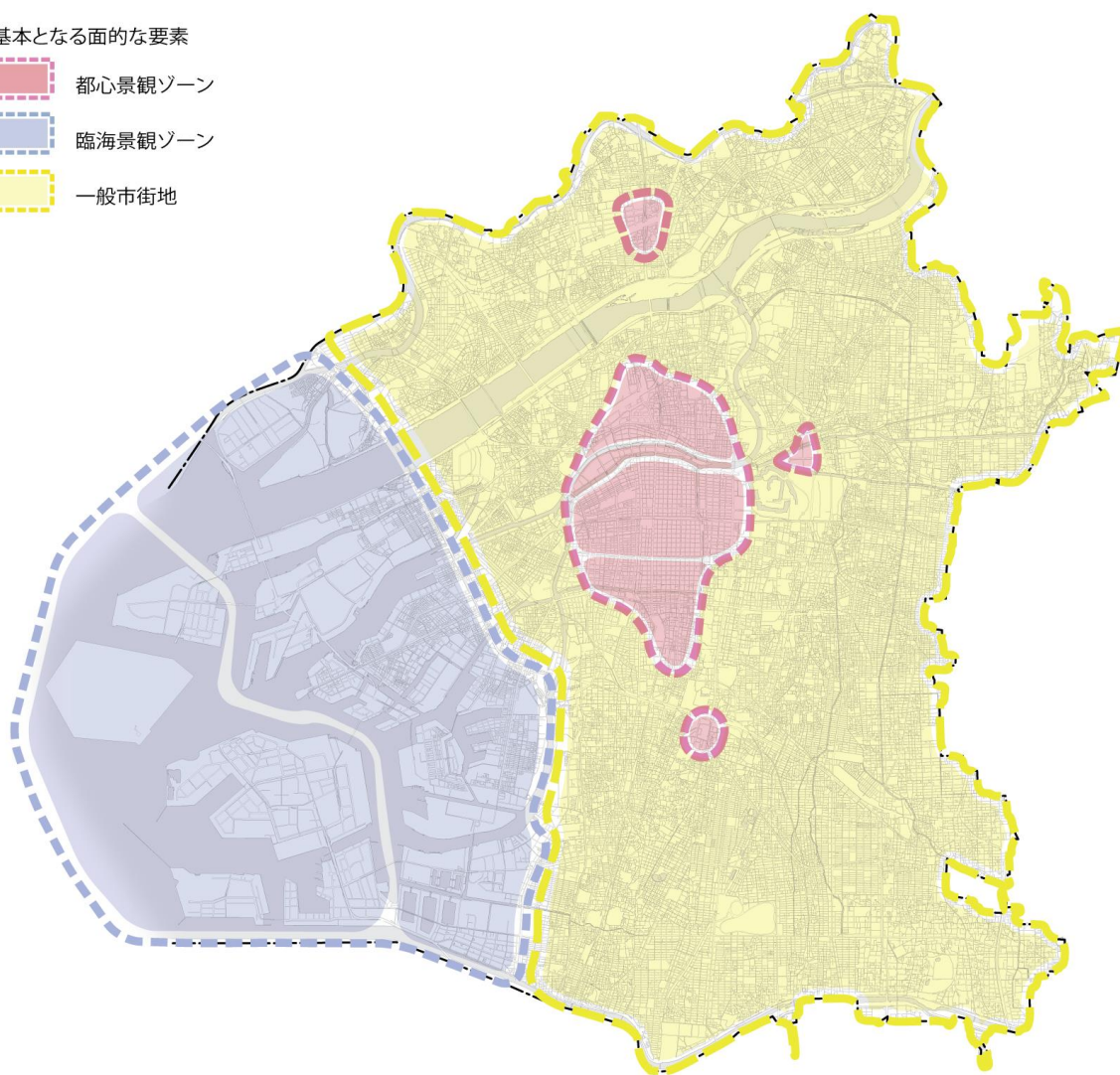
主に地勢の要素、都市基盤の要素、歴史伝統の要素、面的な空間要素などから、景観の基本的な特性が面的に広がる市街地空間のまとまりを抽出し、特に土地利用や建物用途などから景観ゾーンを区分すると「都心」「臨海」の2つの景観ゾーンが抽出され、その他、旧街道や商店街沿いの街並みなど個性的な景観拠点が点在する「一般市街地」も含め、市域全域を大きく3つに区分できます。

【基本となる面的な要素】

景観構造の基本となる面的な市街地のまとまりは、概ね都心部、臨海部及びその他の一般市街地の3ゾーンに分けられます。

基本となる面的な要素

-  都心景観ゾーン
-  臨海景観ゾーン
-  一般市街地



①都心景観ゾーン

- ・都心部の業務・商業系や高層住宅の土地利用を中心とする市街地で、比較的規模の大きな建物が高密度に立地する景観が形成されています。
- ・新大阪駅周辺、都心北部、中之島、都心中央部、都心南部、天王寺・阿倍野、京橋・大阪ビジネスパークでまちなみの特徴は異なっています。

【新大阪駅周辺】

- ・新大阪駅周辺は、都心部とのアクセス向上や土地利用の増進を目的に区画整理事業によりつくられたエリアであり、高い交通利便を強みとし、業務系の用途が多数分布する景観が形成されています。
- ・比較的敷地面積も大きく、ボリュームのある建築物によりまちなみが構成されています。

【都心北部】

- ・大阪駅を中心とする洗練されたエリアであり、大規模な面的な整備が進められてきた駅周辺では、スーパーブロックの業務・商業系を主とする大規模な建築物から成る景観が形成されています。
- ・大阪駅の北側は近年、開発が進められており、グランフロント大阪を中心に美しく先進性を感じられるまちなみが形成されています。
- ・大阪天満宮周辺には伝統的な建築物が残っており、歴史・文化を感じられるまちなみが形成されています。
- ・一方、南側や東側では、キタの繁華街が広がっており、比較的、小規模な商業系用途の建築物が集積する界限景観が形成されています。

【中之島】

- ・風格のある川筋の景観が形成されるよう、周辺とのバランスに配慮して連続性やリズム感のあるまちなみが形成されています。
- ・中之島は、南北を河川に囲まれた独特の地形を有しており、都心部にも関わらず空間的なゆとりがあるまちなみが形成されています。
- ・かつて諸国大名の米蔵があった名残もあり、その敷地は比較的大きく、大規模な建築物が多数立地しています。
- ・西部では業務系用途、中央部～東部にかけては公共・公益用途が卓越しています。

【都心中央部】

- ・幹線道路沿道には多様な用途、規模の建築物やまちの成り立ちを感じさせる建築物などの歴史的景観資源が随所に見られます。
- ・船場を中心とする都心中央部は、大阪城築城と同時にいち早く市街地が形成され、近世のまちづくりを基礎に、特徴あるまちなみが形成されてきた。格子状の市街地構造を土台に、大正以降、「大通り」と「地区道路」の分化が進み、それぞれの景観特性が現れています。
- ・また、高密度な土地利用が行われる中で、まちなみの形成や、快適性の向上やにぎわい創出に向け各種のまちづくり施策が展開されてきました。
- ・一方、長いまちの発展の歴史の中で、町家建築や近代建築といった歴史的資産が残されています。

【都心南部】

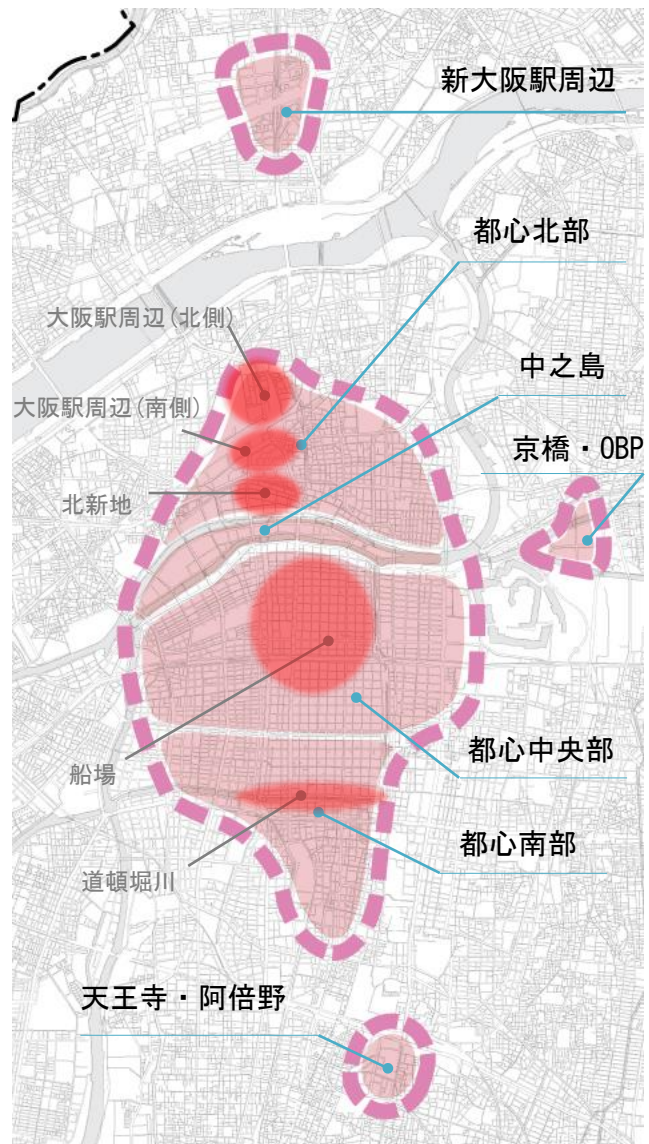
- ・道頓堀周辺では、道頓堀川や千日前を中心とした芝居小屋を起源とする繁華街や商店街など多様な界隈が連担し、他のエリアに比べ、商業系用途が卓越しています。
- ・湊町や難波駅周辺では、面的な開発が行われ、大規模な建築物から成る景観が形成されています。

【天王寺・阿倍野】

- ・ターミナル駅やランドマークであるあべのハルカスを核とし、主に商業系用途からなる景観が卓越するエリアです。
- ・大規模な商業施設や超高層ビル、入組んだ界隈など多様な景観が連担する特徴を有しています。

【京橋・大阪ビジネスパーク】

- ・大阪ビジネスパークでは、クリスタルタワーをはじめとする高層建築群による洗練された印象のまちなみが形成されている。また、低層部や街路においては、大阪城公園の緑を延伸したかのような潤いあるまちなみが見られます。
- ・一方、京橋駅前においては、人々の活動が表出した活気あるまちなみが形成されています。



③臨海景観ゾーン

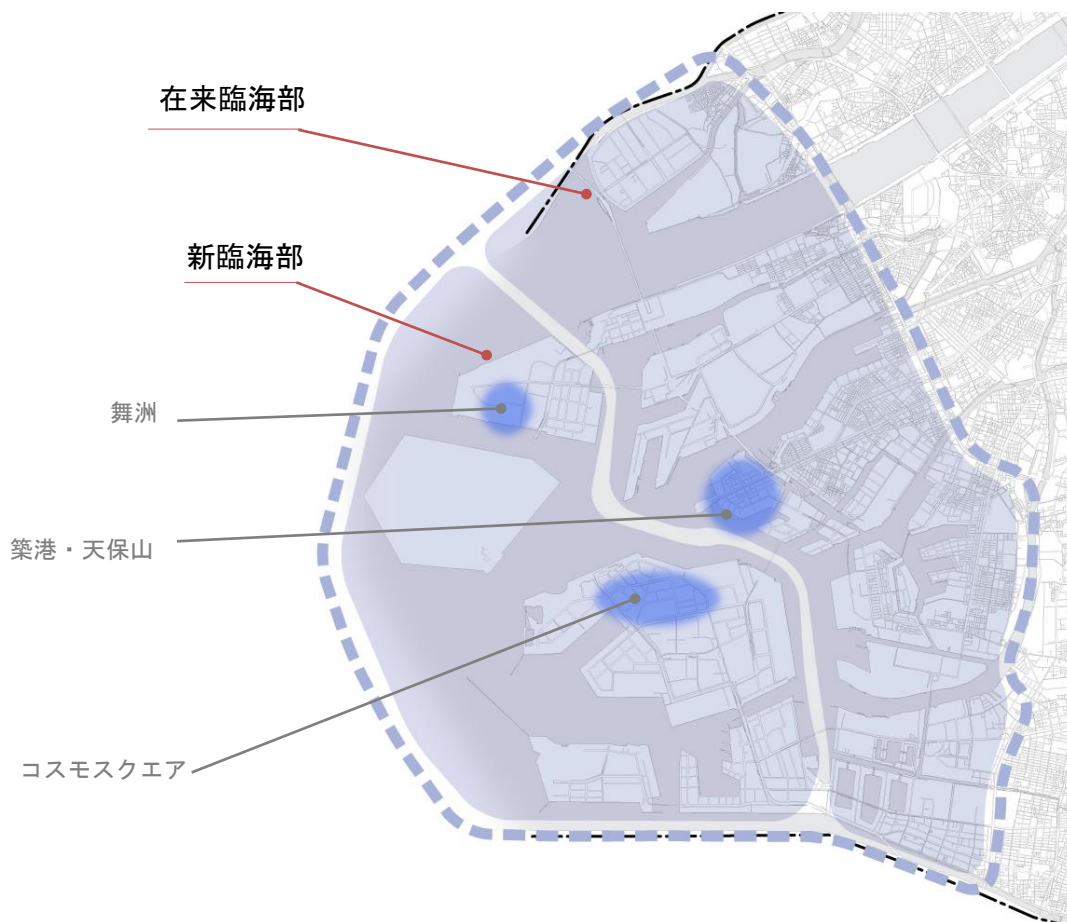
- ・工場や物流系の土地利用を中心とし、敷地面積及び建物のスケールが他の市街地と比して大きい街地で、海岸線はエッジとして見る（視点場）・見られる（視対象）の関係を生んでいます。
- ・比較的新しい時代に埋め立てられた新臨海部とそれ以前に形成された在来臨海部で景観の特徴が異なります。

【在来臨海部】

- ・明治中期から埋め立てられ、新臨海部より内陸に位置するエリアです。屈指の貿易港として発展してきた大阪湾ですが、本エリアにおいては工業系用途からの土地利用転換により、業務・商業・観光・住宅など、多様な土地利用が分布しています。
- ・沿岸部においては、比較的ボリュームの大きい建築物が多くなっていますが、内陸側では、小規模な住宅などが卓越しています。
- ・築港・天保山においては、港町らしい水辺の魅力と観光地としてのにぎやかさが共存するまちなみが形成されています。

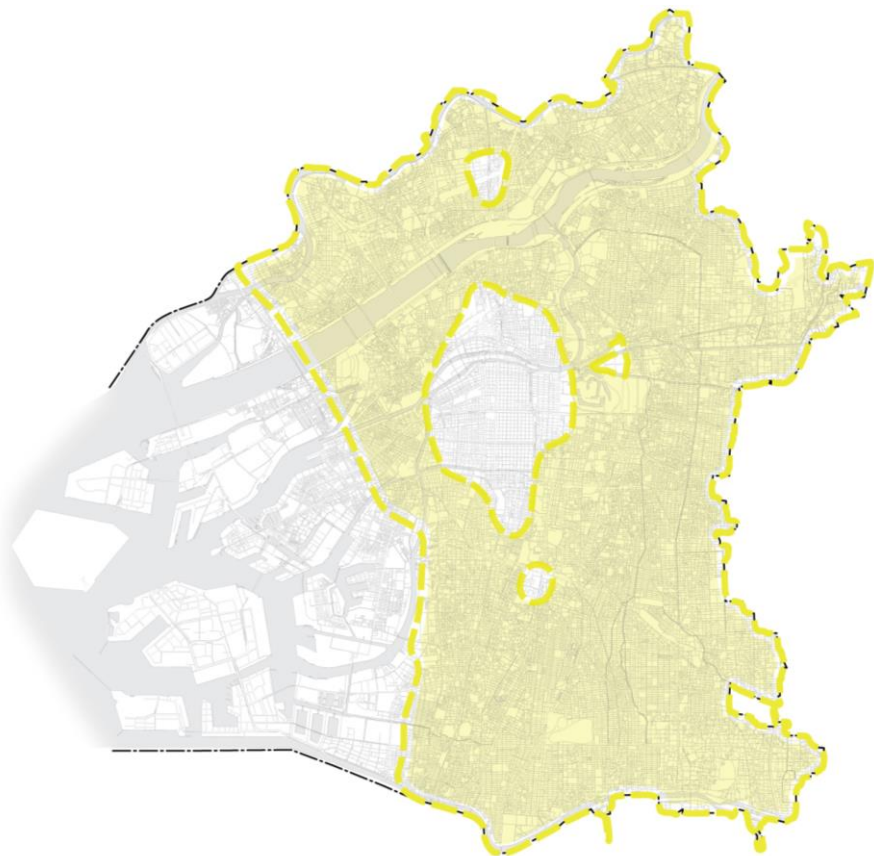
【新臨海部】

- ・昭和中期から埋め立てられ、沿岸部は主に倉庫や工業系用途が発達するが、コスモスクエアなどの高度利用が図られた集客拠点や舞洲などのレクリエーション拠点、またニュータウンなど、地区毎に性格の異なる機能集積が見られます。
- ・敷地に余裕があり、大規模な建築物が多く、対岸からはランドマークとして眺望されます。



④一般市街地

- ・一般市街地では、古代から中世の農村や漁村を起源とする旧集落や旧街道沿いにおいて町屋などの歴史的資源が点在するほか、市民の活気が感じられる商店街などの界限景観や、親しみの感じられる居住地景観など、地域ごとに形成されてきた多様で個性的なまちなみが広い範囲に点在していることが、共通する景観特性となっています。



(参考) 旧集落・旧街道筋の分布

